

福岡県立図書館 図書館評価（平成23年度）

1 図書館評価の趣旨

この評価は、図書館法第7条の3に基づき、図書館の運営の改善を図るため運営の状況について評価を行うものです。

2 評価の構成と方法

(1) 評価項目、数値目標及び実績

資料1「福岡県立図書館 評価項目一覧表（平成23年度）」のとおりでした。

(2) 評価基準

福岡県立図書館評価基準を作成し、客観的な評価を行いました。

福岡県立図書館評価基準

目標値の達成率	評 価
100%以上	達成できた (◎)
95%以上100%未満	ほぼ達成できた (○)
90%以上 95%未満	達成までもう少し (△)
90%未満	達成できなかった (－)

※達成率＝23年度実績／23年度目標×100

(3) 23年度評価方法

- ①各評価項目ごとに達成率を出し、評価基準により評価する。
- ②各機能ごとの評価項目数に占める「ほぼ達成できた」以上の評価項目数の割合を算出し、過半数以上あればその機能は達成とする。
- ③図書館全体の総評価項目数に占める「ほぼ達成できた」以上の評価項目数の割合を出し、過半数以上あれば図書館全体として達成とする。

※評価の構成・方法等の詳細は、資料2「福岡県立図書館の運営状況に関する評価（平成23年度）」を御覧ください。

3 23年度評価結果

各機能ごとの評価項目数、「ほぼ達成できた(○)」以上の項目数及び達成状況は、次表のとおりです。

機 能	評価項目数	○以上の数	達成状況
1 資料収集保存センター機能	5	4	達 成
2 資料情報センター機能	13	10	達 成
3 郷土資料センター機能	6	4	達 成
4 市町村立図書館活動の援助センター機能	4	4	達 成
5 子どもの読書活動推進拠点機能	9	4	未達成
合 計	37	26	達 成

(1) 全体評価

この図書館評価は、平成23年度の当館の5つの機能(①資料収集保存センター機能・②資料情報センター機能・③郷土資料センター機能・④市町村立図書館活動援助センター機能・⑤子どもの読書活動推進拠点機能)について評価したものです。

全評価項目は37項目で、内訳は「◎達成できた」が23項目、「○ほぼ達成できた」が3項目、「△達成までもう少し」が3項目「－達成できなかった」が8項目でした。「ほぼ達成できた」以上の評価が半数の19を超える26項目あり、図書館全体としては、ほぼ満足のいく結果であったと考えます。

以下、機能別にみると、

①資料収集保存センター機能については5項目中「ほぼ達成できた」以上は4項目であり「達成」できたと考えます。特に、録音図書収集タイトル数は、カセットテープからデジタイズへの移行が進み録音図書の製作効率が上がったことから大幅な伸びを示しています。また、新着資料回転率は、貸出可能冊数が増えたことも要因となり、昨年に引き続き大きな伸びを示しています。

②資料情報センター機能では、13項目中10項目が「ほぼ達成できた」以上であり、この機能の目標は「達成」できたと考えます。貸出冊数は11%増を示しました。また、レファレンス件数は、過去最高の件数を示しましたが、行政支援件数が減少しており、改善策を講じる必要があります。一方、ホームページのアクセス数も減少に転じていますので、システム改善等において十分検討していかなければならないと考えております。今後も、課題解決型図書館として、更なるサービスの拡充に努めるとともに、県民ニーズを的確にとらえ、新たな図書館利用者を得るための取組をすすめることが必要と考えます。

③郷土資料センター機能では、6項目中4項目が「ほぼ達成できた」以上であり、この機能の目標は「達成」できたと考えます。特に、レファレンス件数は増えており、基本機能が充実してきております。今後も資料の充実を図り、積極的な情報発信を行うことで利用者増を図っていく必要があります。

④市町村立図書館活動の援助センター機能では、4項目中4項全てが「ほぼ達成できた」以上であり、この機能の目標は「達成」できたと考えます。配送方法や、横断検索の充実によって相互貸借は引き続き例年以上の伸び

を示しました。市町村図書館からのレファレンス件数は、概ね昨年度と同程度の件数となりました。図書館ネットワークによる情報提供やパスファインダー（調べ方の近道案内）の拡充、ホームページの充実、レファレンス研修の成果により、各館での解決件数が増えたことが一因と考えられます。今後とも相談体制を充実していくこととしております。

職員研修会、市町村支援については、市町村図書館からの要望や図書館界の動向に留意して業務を行っているため、いずれも100%の高い満足度を得ています。

⑤子どもの読書活動推進拠点機能については、9項目中4項目が「ほぼ達成できた」以上であり、この機能の目標は達成できませんでした。資料受入点数、青少年と暮らしの交流室ホームページアクセス件数、学校貸出セットの活用、定例お話会参加者数がいずれも減少し、目標を達成できなかったことから、機能充実のための取組の再構築が必要です。児童サービスのモデル図書館として、新たな取組や事業の発展を考えながら、より積極的に取り組んでいく必要があります。

(2) 機能別評価書

1 資料収集保存センターとしての機能に関する評価

評価項目	23年度目標	23年度実績	評価
(1) 受入資料数	26,700 冊	24,990 冊	△
(2) 録音図書収集タイトル数	60 <small>タイトル</small>	151 <small>タイトル</small>	◎
(3) 大活字資料購入率 (=購入点数/出版点数)	100 %	100%	◎
(4) 新着資料回転率 (=新着資料貸出点数/新着資料貸出可能数)	2.20 回	2.84 回	◎
(5) 資料の質や量についての利用者満足度 (子ども図書館を除く) *アンケートによる	80 %	85%	◎
合 計			4

評 価

- ・ 5項目の内、4項目を達成し、当機能の目標を達成した。

達 成 状 況

- ・ 受入資料数については書庫スペース確保の問題がある一方で、収集すべき資料を確実に収集することに努めたが、当初の目標には届かなかった。
- ・ 録音図書収集タイトル数については、録音媒体を本格的にデジタイ化したことで、これまでより製作・編集が容易となったため大幅な伸びを示した。
- ・ 大活字資料購入については、埼玉福祉会刊行分について全点購入した。
- ・ 新着資料回転率については、新着図書の受入・整理の迅速化により、利用者への提供が早くなり、目標値を大きく超えることとなった。
- ・ 利用者の要望を踏まえた選書を迅速に行い、資料の質や量についての利用者の方々の満足を得られた。

改 善 点

- ・ 今、当館にとって収集すべき資料とは何かを広範囲に渡って追求し、県立図書館としての蔵書構成を確実なものとするため、さらに受入・整理方法の点検を行い、迅速化・効率化を目指す。
- ・ 平成24年度より、デジタイによる録音図書製作を基本として、希望者にはカセットテープ版も製作するという体制に移行する予定である。加えて、旧来のカセットテープ図書のデジタイ化を推進するため、製作ボランティアの方々との打ち合わせを密に行う。

2 資料情報センターとしての機能に関する評価

評価項目	23年度目標	23年度実績	評価
(1) 入館者数 (全体)	484,000 人	501,224 人	◎
(2) 新規登録者数	5,600 人	4,974 人	—
(3) 貸出点数 (子ども図書館、録音図書を除く)	299,000 冊	326,721 冊	◎
(4) 貸出点数 (録音図書)	2,300 <small>タイトル</small>	1,691 <small>タイトル</small>	—
(5) レファレンス件数 (本館2階閲覧室)	19,700 件	27,243 件	◎
内訳 ○重点サービス (ビジネス支援)	900 件	1,671 件	◎
○重点サービス (行政支援件数)	520 件	283 件	—
(6) コピー、マイクロフィルム複写枚数 (本館第2閲覧室)	117,000 枚	112,194 枚	○
(7) 館内 OPAC 利用回数 *新指標	213,000 件	208,789 件	○
(8) 福岡県立図書館ホームページアクセス件数	438,000 件	427,339 件	○
(9) Web OPAC 利用回数 *新指標	894,000 件	1,054,646 件	◎
(10) 県民対象講座満足度 (平均) *アンケートによる	97 %	97 %	◎
(11) 目的の資料・情報が入手できたかの利用者 満足度*アンケートによる	89 %	93 %	◎
合 計			10

評 価

13項目中、7項目で目標を達成し、3項目でほぼ達成できた。このため、当機能の目標は達成できた。

達 成 状 況

- 入館者は103%、貸出冊数は109%、レファレンスは138%、ビジネス支援は185%、Web OPAC 利用回数は117%、利用者満足度は104%と100%以上の達成率を示している。在架予約、遠隔地貸出返却サービスなどの浸透や、利用を誘発する資料展示やリストの提供などのニーズに合わせた情報提供が利用を促進している。県民対象講座満足度は、100%の達成率を示している。
- 複写枚数は94%、館内 OPAC 利用回数は95%、ホームページアクセス件数は97%の達成率で、100%にはあと少しで届かなかったが、複写枚数は昨年度を超える実績であり、館内 OPAC 利用回数とホームページアクセス件数は過去3年の平均を超える実績値となっている。
- 新規登録者数は、88%、録音図書貸出点数は73%、行政支援は54%の達成率で、目標に届かなかった。

改 善 点

- 遠隔地貸出返却サービスや、郵送登録サービスの浸透に努め、利用者層の拡大に取り組む。
- 録音図書については、関係機関と連携や広報に努め、利用者の増加を図る。
- 行政支援レファレンスについては、各部署のニーズに合わせた情報提供により利用拡大に努める。

3 郷土資料センターとしての機能に関する評価

評価項目	23年度目標	23年度実績	評価
(1) 資料受入点数 (郷土資料)	1,400 冊	1,099 冊	—
(2) 入館者数 (郷土資料室)	27,000 人	32,075 人	◎
(3) レファレンス件数 (郷土資料室)	5,500 件	7,089 件	◎
(4) コピー、マイクロフィルム複写枚数 (郷土資料室)	82,900 枚	88,174 枚	◎
(5) 郷土資料室ホームページアクセス件数	6,700 件	6,262 件	△
(6) 郷土(福岡県)資料の質や量についての 利用者満足度 *アンケートによる	95 %	95 %	◎
合 計			4

評 価

- ・ 6項目のうち達成できたのは4項目で、当機能の目標はほぼ達成できた。

達 成 状 況

- ・ 郷土資料の受入点数は、22年度の受入・整理方法の見直しにより迅速化されたが、目標の75%の達成率で大きく落ち込んだ。
- ・ 入館者数は目標の118%、レファレンス件数は128%の達成率となり、県立図書館の基本的機能を十分に発揮した。
- ・ 複写枚数は目標の106%の達成率であり、目標を達成した。入館者数、レファレンス件数の増加に比例しての増加とも思われる。
- ・ ホームページアクセス件数は目標の93%の達成率で目標を達成できなかった。新規掲載、内容等の充実を行ったが、トップページを経由しないコンテンツ利用も低下の一因と考えられる。
- ・ 郷土資料の質や量についての利用者満足度は、目標の95%の達成率で目標を達成した。

改 善 点

- ・ 資料整理受入業務との連絡・協力を密にする。
- ・ 郷土資料室のホームページ内のコンテンツは、トップページを経由せずにアクセスできるコンテンツ(データベース、デジタルライブラリ)を含んでいるので、実際の閲覧数を反映できる評価項目の検討を行う必要がある。

4 市町村立図書館活動の援助センターとしての機能に関する評価

評価項目	23年度目標	23年度実績	評価
(1) 相互貸借冊数	17,000 冊	20,163 冊	◎
(2) レファレンス件数 (市町村立図書館)	1,000 件	1,043 件	◎
(3) 職員研修会満足度 *アンケートによる	98 %	100 %	◎
(4) 市町村支援満足度 *アンケートによる	98 %	100 %	◎
合 計			4

評 価

- ・ 4項目すべてにおいて目標を達成できたため、当機能の目標は達成できた。

達 成 状 況

- ・ 相互貸借件数は、目標を大きく上回り達成できた。遠隔地サービスの周知に伴い、相互貸借の周知も進んだことが一因と考えられる。
- ・ レファレンス件数 (市町村立図書館) は目標を達成できたが、企画協力課で受けた市町村からのレファレンス件数を把握できていないことが課題である。
- ・ 職員研修会満足度、市町村支援満足度は、目標を達成できた。県公共図書館等協議会の研修委員会等で、市町村立図書館からの要望を把握するとともに、図書館界の最新情報にも留意して研修を実施しているため、高い満足度を得ている。

改 善 点

- ・ 相互貸借冊数は、福岡県図書館情報ネットワークの未加入町村への働きかけ及び相互貸借条件の不平等の解消などにより増加を図る。冊数の増加に対応できる搬送経費の確保も必要である。
- ・ レファレンス件数 (市町村立図書館) については、市町村等への広報と多様なツールを活用した相談体制を整え、迅速な回答に努める。また、企画協力課で受けるレファレンス件数の把握と事例のデータ入力・蓄積にも留意する。
- ・ 職員研修会、市町村支援は安定した満足度を示しているが、引き続き図書館界の最新情報や市町村からの要望を把握して、研修内容の充実に努める。市町村支援に関しては、「福岡県公共図書館等概況」の調査項目に挙がっていない県内図書館で新しく開始されたサービスの実施状況の問い合わせが多いため、最新情報を把握する方法を検討する。

5 子どもの読書活動推進拠点としての機能に関する評価

評価項目	23年度目標	23年度実績	評価
(1) 資料受入点数 (子ども図書館)	4,000 冊	3,304 冊	—
(2) レファレンス件数 (子ども図書館)	2,700 件	2,803 件	◎
(3) 子ども図書館ホームページアクセス件数	17,600 件	19,381 件	◎
(4) 青少年と暮らしの交流室ホームページアクセス件数	8,700 件	5,911 件	—
(5) 入館者数 (子ども図書館)	86,700 人	80,702 人	△
(6) 貸出点数 (子ども図書館)	75,600 冊	95,156 冊	◎
(7) 学校貸出セットの活用	43 回	27 回	—
(8) 定例お話し会参加者数	3,100 人	2,485 人	—
(9) 子ども図書館の資料の質や量についての利用者満足度 *アンケートによる	90 %	91%	◎
合 計			4

評 価

- ・ 9項目のうち達成できたのは4項目であり過半数に届かず、当機能の目標は達成できなかった。

達 成 状 況

- ・ 資料受入点数は、目標の82%の達成率で、目標は達成できなかったものの、昨年度の受入点数3,260冊を上回っている。
- ・ レファレンス件数は、目標を達成できた。
- ・ 子ども図書館ホームページアクセス件数は、目標の110%の達成率で、目標を達成できた。利用者に配慮した既存ページの見直しと更新の効果があったと考えられる。
- ・ 青少年と暮らしの交流室ホームページアクセス件数は、目標を達成できなかった。
- ・ 入館者数は、目標の93%の達成率で、目標達成までもう少しであった。
- ・ 貸出冊数は、昨年度に引き続き大幅な伸びを示し、目標の125%の達成率で目標を達成できた。
- ・ 学校貸出図書セットの活用は目標の62%の達成率で、2年連続で目標を達成できなかった。図書の受け入れが年度末になり、新しいセットを活用できなかったことが一因と考えられる。
- ・ 定例お話し会参加者数は、目標の80%の達成率で、目標を達成できなかった。小学生の参加が減っていることが一因と考えられる。
- ・ 利用者満足度は、目標を達成できた。

改 善 点

- ・ 資料受入点数は、選書・受入・整理を効率的に行うことにより、増加を図る。
- ・ 入館者数は、貸出利用者やお話し会参加者等の年齢別内訳を分析し、利用増の対策を講じる。
- ・ 学校貸出図書セットは、迅速に選書・受入・整理を行い、計画的な周知を行うことにより、利用増を図る。
- ・ 定例お話し会は、小学生が来館しやすい時間帯に設定する等の見直しを行い、利用増を図る。
- ・ 青少年と暮らしの交流室ホームページは、既存ページの見直しと充実により、アクセス件数の増加を図る。

資料1 福岡県立図書館 評価項目一覧(平成23年度)

評価項目	設定理由	数値目標の設定	過去3年平均	23年度目標	23年度実績	伸び率	達成率	H23結果
1 資料収集保存センターとしての機能に関する評価								
(1) 受入資料数	計画的に収集するため	平成22年度実績と同程度	26,833 冊	26,700 冊	24,990 冊	93 %	93 %	△
(2) 録音図書収集タイトル数	録音資料の充実度を測る指標として設定する。	過去3年平均の7%増	56 タイトル	60 タイトル	151 タイトル	251 %	251 %	◎
(3) 大活字資料購入率(=購入点数/出版点数)	障がい者・高齢者サービス指標として	全点購入	100 %	100 %	100 %	100 %	100 %	◎
(4) 新着資料回転率(=新着資料貸出点数/新着資料貸出可能数)	資料の有効活用度を測る指標として設定する。	平成22年度実績と同程度 (過去3年平均の37%増相当)	1.60 回	2.20 回	2.84 回	128 %	129 %	◎
(5) 資料の質や量についての利用者満足度(子ども図書館を除く。)*アンケートによる。	利用者の満足度を測る指標として設定する。	平成22年度と同程度 (過去3年平均の4%増相当)	77 %	80 %	85 %	106 %	106 %	◎
							○以上の数 4/5	
2 資料情報センターとしての機能に関する評価								
(1) 入館者数(全体)	図書館がより多くの県民に利用されているかの指標となる。	過去3年平均の1%増 (H23から算出方法変更)	478,580 人	484,000 人	501,224 人	104 %	103 %	◎
(2) 新規登録者数	図書館がより多くの県民に利用されているかの指標となる。	過去3年平均の2%増	5,489 人	5,600 人	4,974 人	92 %	88 %	—
(3) 貸出点数(子ども図書館、録音図書を除く。)	一般資料の利用に関する指標として	平成22年度実績の2%増 (過去3年平均の約30%増相当)	229,956 冊	299,000 冊	326,721 冊	111 %	109 %	◎
(4) 貸出点数(録音図書)	障がい者サービス指標として	過去3年平均と同程度	2,275 タイトル	2,300 タイトル	1,691 タイトル	84 %	73 %	—
(5) レファレンス件数(本館2階閲覧室)	レファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均と同程度	19,631 件	19,700 件	27,243 件	140 %	138 %	◎
内数 ○重点サービス(ビジネス支援)	レファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均の5%増	855 件	900 件	1,671 件	202 %	185 %	◎
○重点サービス(行政支援件数)	レファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均の5%増	492 件	520 件	283 件	62 %	54 %	—
(6) コピー、マイクロフィルム複写枚数(本館第2閲覧室)	所蔵資料が利用者にとって有効であったことを示す指標となるため	過去3年平均と同程度	117,133 枚	117,000 枚	112,194 枚	103 %	95 %	○
(7) 館内OPAC利用回数 *新指標	来館者自らによる所蔵資料検索利用状況を図る指標として設定する。	過去2年平均の5%増	202,439 件	213,000 件	208,789 件	100 %	98 %	○
(8) 福岡県立図書館ホームページアクセス件数	ホームページの充実度を見る指標となる。	平成22年度と同程度 (過去3年平均の15%増相当)	379,674 件	438,000 件	427,339 件	97 %	97 %	○
(9) Web OPAC利用回数 *新指標	ホームページからの所蔵資料検索利用状況を図る指標として設定する。	平成22年度の5%増 (過去2年平均の17%増相当)	762,493 件	894,000 件	1,054,646 件	123 %	117 %	◎
(10) 県民対象講座満足度(平均) *アンケートによる。	県民対象講座参加者の満足度を測る指標として設定する。	過去3年平均と同率	97 %	97 %	97 %	102 %	100 %	◎
(11) 目的の資料・情報が入手できたかの利用者満足度*アンケートによる。	利用者の満足度を測る指標として設定する。	過去3年平均と同率	89 %	89 %	93 %	102 %	104 %	◎
							○以上の数 10/13	

評価項目	設定理由	数値目標の設定	過去3年平均	23年度目標	23年度実績	伸び率	達成率	評価
3 郷土資料センターとしての機能に関する評価								
(1) 資料受入点数(郷土資料)	郷土資料を計画的に収集するため	過去3年平均と同程度	1,377 冊	1,400 冊	1,099 冊	55 %	78 %	—
(2) 入館者数(郷土資料室)	郷土資料室の利用に関する指標として	従前の手動計測方式から機械計測へ変更 (第1四半期実績の平均から年間の目標値を設定した)	8,841 人	27,000 人	32,075 人	390 %	118 %	◎
(3) レファレンス件数(郷土資料室)	郷土資料に関するレファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均の2%増	5,387 件	5,500 件	7,089 件	128 %	128 %	◎
(4) コピー、マイクロフィルム複写等枚数(郷土資料室)	所蔵資料が利用者にとって有効であったことを示す指標となるため	過去3年平均の2%増	81,289 枚	82,900 枚	88,174 枚	103 %	106 %	◎
(5) 郷土資料室ホームページアクセス件数	ホームページの充実度を見る指標となる。	平成22年度実績と同程度 (過去3年平均の16%増相当)	5,774 件	6,700 件	6,262 件	93 %	93 %	△
(6) 郷土(福岡県)資料の質や量についての利用者満足度*アンケートによる。	利用者の満足度を測る指標として設定する。	過去3年平均の1%増	94 %	95 %	95 %	98 %	100 %	◎
							○以上の数 4/6	
4 市町村立図書館活動の援助センターとしての機能に関する評価								
(1) 相互貸借冊数	相互利用の協力活動の指標となる。	過去3年平均の6%増	16,034 冊	17,000 冊	20,163 冊	109 %	118 %	◎
(2) レファレンス件数(市町村立図書館)	市町村からのレファレンスを受け支援しているため	過去3年平均と同程度	1,001 件	1,000 件	1,043 件	98 %	104 %	◎
(3) 職員研修会満足度*アンケートによる。	市町村立図書館等職員の資質・能力向上の指標となる。	過去3年平均と同率	98 %	98 %	100 %	101 %	102 %	◎
(4) 市町村支援満足度*アンケートによる。	市町村支援の指標となる。	過去3年平均と同率	98 %	98 %	100 %	102 %	102 %	◎
							○以上の数 4/4	
5 子どもの読書活動推進拠点としての機能に関する評価								
(1) 資料受入点数(子ども図書館)	子ども資料を計画的に収集するため	過去3年平均と同程度	4,049 冊	4,000 冊	3,304 冊	101 %	82 %	—
(2) レファレンス件数(子ども図書館)	レファレンスの利用状況を客観的に把握できるため	過去3年平均と同程度	2,675 件	2,700 件	2,803 件	110 %	103 %	◎
(3) 子ども図書館ホームページアクセス件数	ホームページの充実度を見る指標となる	過去3年平均と同程度	17,592 件	17,600 件	19,381 件	90 %	110 %	◎
(4) 青少年と暮らしの交流室ホームページアクセス件数	ホームページの充実度を見る指標となる	過去3年平均と同程度	8,679 件	8,700 件	5,911 件	67 %	67 %	—
(5) 入館者数(子ども図書館)	子ども図書館の利用に関する指標として	過去3年平均と同程度	86,713 人	86,700 人	80,702 人	94 %	93 %	△
(6) 貸出点数(子ども図書館)	子ども図書館の利用に関する指標として	過去3年平均と同程度	75,551 冊	75,600 冊	95,156 冊	102 %	125 %	◎
(7) 学校貸出セットの活用	学校との連携・市町村支援の効果を測る指標として設定する。	過去3年平均と同程度	43 回	43 回	27 回	93 %	62 %	—
(8) 定例お話し会参加者数	子ども図書館の利用に関する指標として	過去3年平均と同程度	3,061 人	3,100 人	2,485 人	77 %	80 %	—
(9) 子ども図書館の資料の質や量についての利用者満足度*アンケートによる。	利用者の満足度を測る指標として設定する。	過去3年平均の2%増	88 %	90 %	91 %	98 %	101 %	◎
							○以上の数 4/9	

注

1 重点的に取り組む事項は数値目標の設定欄をカラー表示しています。

2 2-(1)入館者数(全体)の算出方法の変更内容は、学習室に係るマイナス補正を廃止したものです。平成20～22年度の実績についても同様に換算した後の数値となっています。

3 2-(10)県民対象講座満足度の23年度の対象講座は①音声訳(録音図書製作)ボランティア養成講座、②読書週間事業読書講演会、③郷土史講座の3講座とします。

○以上の数の合計	26
37項目全体に占める割合	70.3%

50 —

90 ≤ △

95 ≤ ○

100 ≤ ◎

福岡県立図書館の運営状況に関する評価（平成23年度）について

1 根拠となる法令等

図書館法第7条の3（平成20年6月4日改正）

「図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」

*参考

平成13年7月18日 文部科学省告示第132号「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」

1 総則

(三) 図書館サービスの計画的実施及び自己評価等

①公立図書館は、そのサービスの水準の向上を図り、当該図書館の目的及び社会的使命を達成するため、そのサービスについて、各々適切な「指標」を選定するとともに、これらに係る「数値目標」を設定し、その達成に向けて計画的にこれを行うよう努めなければならない。

2 評価項目一覧表について

県立図書館の5つの機能ごとに評価項目、設定理由、23年度（数値）目標等を定める。

(1) 数値目標の設定について

基本的に20～22年度3か年実績の平均値と同程度とし、23年度に重点的に取り組む事項については、原則として対平均値の10%増の範囲で目標設定を行う。

(2) 利用者への周知

評価項目一覧表は、ホームページで公表する。

3 評価基準について

目標達成率を基準にした「評価基準」を定め、客観的な評価を行う。

福岡県立図書館評価基準

目標値の達成率	評 価
100%以上	達成できた (◎)
95%以上100%未満	ほぼ達成できた (○)
90%以上 95%未満	達成までもう少し (△)
90%未満	達成できなかった (－)

※達成率＝23年度実績／23年度目標×100

4 23年度評価方法及び次年度への反映

①各評価項目ごとに達成率を出し、評価基準により評価する。

②各機能ごとの評価項目数に占める「ほぼ達成できた」以上の評価項目数の割合を出し、各機能を評価する。（過半数以上あれば達成とする。）

③図書館全体の総評価項目数に占める「ほぼ達成できた」以上の評価項目数の割合を出し図書館全体を評価する。（過半数以上あれば達成とする。）

④評価をもとに図書館として改善すべき点を確認し、次年度に生かす。

⑤評価結果は住民に公表する。